

令和5年度「一中の教育を振り返る意識調査」 学校評価の結果と考察

調査実施日 令和6年1月12日～26日

1 調査について

本校では、毎年、教育活動や学校運営について継続して改善を行うために、「一中の教育を振り返る意識調査」を行っている。これは、今年度の学校経営方針について、保護者・生徒・教職員の三者にアンケート形式で調査をしているものである。学校経営方針の5分野16項目についての質問項目とし、上記日程で保護者・生徒・教員の三者にアンケート形式で調査を行い、保護者、教職員、生徒が Googleform を活用し、回収したアンケートの結果をまとめて分析した。ただし、生徒は教室で一斉に回答している。

※回答は「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」「1：そう思わない」からの選択

2 調査結果と考察

(1) 総評

「4」「3」の合計が80%を超える評価は、16項目の評価項目中、保護者4項目、生徒1項目、教職員8項目であった。全体として生徒と教職員との意識にずれが生じていることが分かる。教育活動において、生徒の活動を価値づけたり、適切に評価したりすることによって、生徒が自信をもって自らの活動を評価できるようになるものと思われる。

また、全体的な一中生のよさとして、優しさと素直さ、真面目な生徒が多いことがあげられた。一方、課題としては自主性や積極性が足りないこと、自分から明るく挨拶できる生徒が少ないことがあげられた。これまで、新型コロナウイルス感染症対策として、人とのコミュニケーションが制限されてきた影響が背景としてあると考えられる。今後は、それらの課題を改善するために、生徒会活動等とおしてバイタリティーにあふれる学校づくりを目指していきたい。

(2) 成果

「4」「3」の合計が、生徒、教職員ともに80%以上の高い評価を得たのは、次のとおりである。

- | | |
|---|---------|
| <input type="checkbox"/> 互いの個性を尊重し、高め合いながら、共に伸びようとする力の育成。 | 項目3 (2) |
| <input type="checkbox"/> よりよい生き方についての考えを深める道徳教育の充実 | 項目3 (3) |

① 項目3 (2) について

生徒アンケートでは、一中は相手の個性を大切にする思いやりもあり、優しい生徒が多いとの回答が見られる。また、生徒会活動や「FF体育祭」や「体力別遠足」「合唱コンクール」等の学校行事では、団結し、協力して目標を達成しようとするところが良いと捉えられている。本番に至るまでの過程を大切にした取組みやその活動を通して、充実感や自己の成長を実感することができていることがうかがえる。

② 項目3(3)について

「一中いのちの日」はもちろん、校長による全校一斉の道徳や担任外の教職員による授業、そしてローテーション道徳等の取り組みをとおして、道徳教育の充実を図ってきた。生徒のみならず、教職員にとってもよりよい生き方を考える有意義な時間となっており、高い評価を得ている。

「4」「3」の合計が、保護者、教職員ともに80%以上の高い評価を得たのは、次のとおりである。

- | | |
|---|--------|
| <input type="checkbox"/> 「いのち」を大切に作る心を育て、自己有用感を高める教育の推進 | 項目3(1) |
| <input type="checkbox"/> 特別支援教育や教育相談についての理解・実践力の向上 | 項目4(3) |

① 項目3(1)について

「一中いのちの日」の取り組みは、講話や読み語り、仲間のよさに目を向けた社会性を養う活動などを行い、「いのち」を見つめる大切な時間となっており、高い評価を得ている。外部講師やPTAの方々の協力を得ることによって、生徒の学習効果が高まっている。

② 項目4(3)について

特別支援コーディネーターや教育相談担当から教職員に対して様々な情報提供を行うことを通じて、生徒理解について研修を積むとともに、常に生徒が見える距離感をもって担任が関わってきた成果と考えられる。

(3) 課題

A 保護者、生徒、教職員いずれも「4」「3」の合計が80%以下の評価項目は、次のとおりである。

- | | |
|--|--------|
| ■ 「1人1台端末」を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践 | 項目1(2) |
| ■ 地域と関わる活動等による社会性や貢献意欲、自尊感情の育成 | 項目2(3) |
| ■ 校務支援ソフトの有効活用や、地域・保護者との連携、部活動の地域移行の検討等による教職員が本来の業務に専念できるための環境整備 | 項目4(4) |
| ■ 地域の人的・物的資源活用による郷土愛を育む教育活動の推進 | 項目5(1) |
| ■ 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に向けた組織や体制について | 項目5(2) |

① 項目1(2)について

タブレットの有効活用について、生徒と教師では教員の方が22%低いことがわかった。主な活用場面は、朝活動におけるAIドリルや各授業における情報収集・プレゼン作成などがあげられ、個別最適な学びにおける実践が比較的進んでいる。しかしながら、協働的な学びの場面での意見交流などにおいて、タブレットの活用を進めていくことが今後の課題となっている。

② 項目2(3)、項目4(4)、項目5(1)、項目5(2)について

「4」「3」の合計が教員で低い。教員は、子どもたちに自ら考え行動できるような主体性を育みたいと考えており、学校だけで育むのではなく、地域の方の協力を得たいと考えている。現在行っている雪掃きボランティアや奉仕活動について、さらに、今後地域に移行されていく部活動の在り方等、学校運営協議会で地域活動をよりよいものとするためのご意見を伺っていきたい。

B 教師の評価より生徒の方が20%以上低い評価項目は、次のとおりである。

■充実した教材研究の時間の確保による授業力の向上、及び教職員における専門性の向上
項目4(1)

生徒は、興味・関心をもって授業に臨み、学ぶことが楽しいと感じることができたかについては68%、それに対して、教師は、授業力の向上のために教材研究の時間を確保し、教職における専門性の向上に努めたかについては88%であった。教師は、毎週の教科部会や指導案を作成して授業を公開する校内研修などを行って授業力の向上に努めてきた。しかしながら、それらの研修が生徒の興味・関心や学びの楽しさにつながっていないことは、大きな課題である。

来年度は、校内研究の主題の見直しを図り、教材研究と生徒理解の両面から授業づくりを進めていくことで、生徒の実態に合わせて、分かる・できる楽しさを実感させ、学び続ける生徒の育成を目指していきたい。

C 教師の評価より保護者の方が20%以上低い評価項目は、次のとおりである。

■生徒が主体的に取り組み、かつ各教科の見方・考え方を働かせる授業の充実 項目1(1)
■総合的な学習の時間における探究的な学習の充実 項目1(3)
■よりよい生き方についての考えを深める道德教育の充実 項目3(3)

項目1(1)、項目1(3)ともに保護者は66%、教師は88%であった。項目3(3)は保護者は64%、教師は91%であった。保護者の自由記述の中に、「子どもから聞かないと授業について回答することができない」という指摘をいただいている。そのことから、保護者の方に日々の授業の様子を実際に見届けていただいたり、お便りなどを通して発信したりすることが必要である。また、より深い道德性を育むために、ご家庭においても夢や目標、よりよい生き方について語り合ったりするような場を設けていただくよう働きかけたい。

学校評議員会において

学校評議員会では、はじめに、「一中の教育を振り返る意識調査の集計結果」について説明を行い、来年度から導入する予定の学校運営協議会について説明しました。

その後、学校評議員の皆様から意見をいただきました。保護者の評価が全体的に昨年度と比べ低かったことについて、今年度、保護者が学校に来る機会がほとんどなかったことが一因となっているのではとの意見がありました。「地域との連携に関する項目」で、教職員の評価が昨年度と比べ低くなっている点について、教職員が地域と連携する意識を高めていく必要が感じられるとのご意見をいただきました。学校運営協議会を導入し、地域との連携を深めるにあたって、教職員の研修を実施することの必要性や、「総合的な学習の時間」の改善を図るなど教育課程の改善を検討していくこと、地域連携推進員の選定が大きなポイントになることなどが今後の課題であることのご指摘がありました。さらに、教員は地域との連携を課題としているが、保護者や生徒は授業（学力）の充実を求めており、生徒が地域課題について取り組むような探究型授業を仕組みないか等のご要望もいただきました。

学校運営協議会に関わって、本校では令和3年度を試行期間、令和4年度に完全実施を目指すことについて、委員を選出する際、地域ごとの委員数のバランスをとる必要があり、準備委員会を立ち上げるなど、話し合いを深めておく必要があるのではないか等のご意見をいただきました。また、校長が2～3年で異動することもあり、長期的な戦略が出来るのか、他の教職員も学校運営に使命感を持つことができるよう、ある程度長い期間の勤務も必要ではないか等のご意見もいただきました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、例年と異なり、生徒活動を学校評議員が参観する機会がなかったが、学校ホームページによる情報公開がよかったとのご意見や、教職員も地域のコミュニティ・センターに足を運ぶなどして交流を深めてほしいとの要望もいただきました。今後もコミュニティ・センターの協力を得て生徒活動の広報活動を行うことや、「学校だより」等の地域での回覧を行うなど、地域への情報発信を大切にしていくことを確認しました。

次に、協議題「地域課題～地域課題に対して中学生が取り組むべきこと～」について意見交換を行いました。学校評議員の皆様からは、郷土愛を育むための事業が少ないこと、県教委が4年前に作成した「郷土山形」の資料が十分に活用されていないこと、地域課題に取り組むには地域コーディネーター役がないと大変であること、講師謝礼など学校の活動資金が必要ではないか等のご意見が交わされました。また、子供たちがゲームを行う時間が増え、心が育っていないことや、コミュニケーション能力の育成が課題として挙げられました。PTAも絡め、地域連携への中学生の取組がさらに発展するよう進めていってほしいとのご意見もいただきました。

最後に、学校運営協議会を有効に活用するためには、推進員がキーパーソンになることを鑑み、地域の状況をよく知り、課題を吸い上げるため、いろいろな情報を持っている人を選出すること、地域課題と学校課題を繋ぐ働きを学校運営協議会が担うこと等の方向性が確認されました。